

# 高等学校 家庭科(各学科に共通する教科)

## 1 改訂の趣旨及び要点

### 改訂の基本的な考え方

- ・家族の一員として協力することへの関心が低いこと、家族や地域の人々と関わること、家庭での実践や社会に参画することが十分ではないことなどの課題に対応する。
- ・家族・家庭生活の多様化や消費生活の変化等に加えて、グローバル化や少子高齢化の進展、持続可能な社会の構築等、今後の社会の急激な変化に主体的に対応する。
- ・生活の科学的な理解を深め、生活の自立に向けて主体的に活用できる技能の習得を図るために、実践的・体験的な学習活動を重視し、問題解決な学習を一層充実する。

### 目標の改善

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して**主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力**を次のとおり育成することを目指す。

#### 知識・技能の習得

人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。

#### 思考力・判断力・表現力等の育成

家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。

#### 学びに向かう力・人間性等の涵養

様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。

### 学習内容の改善・充実

- ・小・中・高等学校の系統性を踏まえ、内容構成を「A 家族・家庭及び福祉」、「B 衣食住」、「C 消費生活・環境」に「D ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」を加えた4つに整理。
- ・「生涯の生活設計」をまとめとしてだけでなく、科目の導入として、またAからCまでの内容と関連付け、まとめとして扱い、生活課題に対応した意思決定の重要性についての理解や生涯を見通した生活設計の工夫ができるようにする。
- ・成年年齢引き下げを踏まえ、契約の重要性や消費者保護の仕組みに関する内容等、消費者被害の未然防止に関する内容を充実。
- ・ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動を引き続き重視。家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして解決策を構想し、実践を評価・改善して、新たな課題の解決に向かう過程を重視した学習を充実。

### 指導計画作成上の配慮事項 等

- ・各科目に配当する総授業時数のうち原則として10分の5以上を実験・実習に配当すること。
- ・「家庭基礎」は、原則として、同一年次で履修させること。「家庭総合」を複数の年次にわたって履修させる場合には、原則として連続する2か年において履修させること。
- ・【移行措置による、指導内容の変更の特例(令和元年度から、平成30年度以降に高等学校に入学した生徒を対象)】  
新高等学校学習指導要領の契約の重要性及び消費者保護の仕組みに関する規定の事項を加えて指導すること。
- ・【現行学習指導要領の一部改訂(令和2・3年度入学生)】  
現行学習指導要領における家庭科「家庭基礎」の「2(2)生活の自立及び消費と環境」、「家庭総合」の「2(3)生活における経済の計画と消費」、「生活デザイン」の「2(2)消費や環境に配慮したライフスタイルの確立」を、第1学年及び第2学年のうちに履修させる。
- ・【新学習指導要領の一部改訂(令和4年度入学生～)】  
新学習指導要領における家庭科「家庭基礎」及び「家庭総合」の「C 持続可能な消費生活・環境」を、第1学年及び第2学年のうちに履修させる。

## 2 高等学校家庭科(共通教科)における授業づくりのポイント

### ポイント①：「生活の営みに係る見方・考え方」を基にした、学習内容の関連付けや題材構成

授業を構想する際には、生徒が「生活の営みに係る見方・考え方」として示された4つの視点を用いて様々な生活事象を捉えて、より良い生活の実現に向けて考えるにはどのような学習課題や場面を設定するとよいかを意識して学習内容を組み、題材を構成しましょう。どの分野・領域においても4つの視点を鍵にして工夫したり考察させたりすることで、家庭科がめざす自立し共に生きる生活を創造する資質・能力は育まれます。

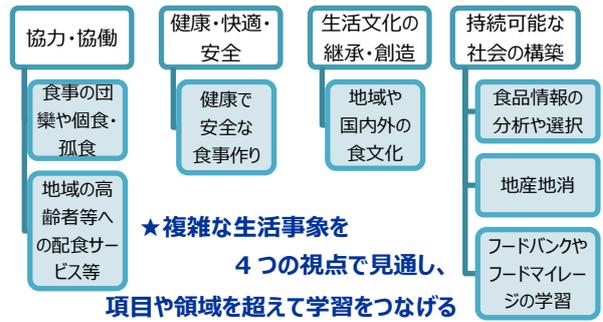
#### 【生活の営みに係る見方・考え方】

家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を4つの視点で捉え、よりよい生活を営むために工夫すること。

<b>協力・協働</b>	年齢・性別・障がい・国籍等を超えて互いに尊重し合い、協働し共に生きる視点 等
<b>健康・快適・安全</b>	衣食住をはじめ、家族の生活を健康で安全、かつ快適に営む視点 等
<b>生活文化の継承・創造</b>	生活文化を理解し味わい継承すると同時に、新しい文化を創り出す視点 等
<b>持続可能な社会の構築</b>	環境、消費、衣食住などの生活の在り方を、持続可能性の角度から考え実践する視点 等

※ 取り上げる内容や題材構成により、どの視点を重視するのかが異なる。

#### 【食の領域における「見方・考え方」(例)】

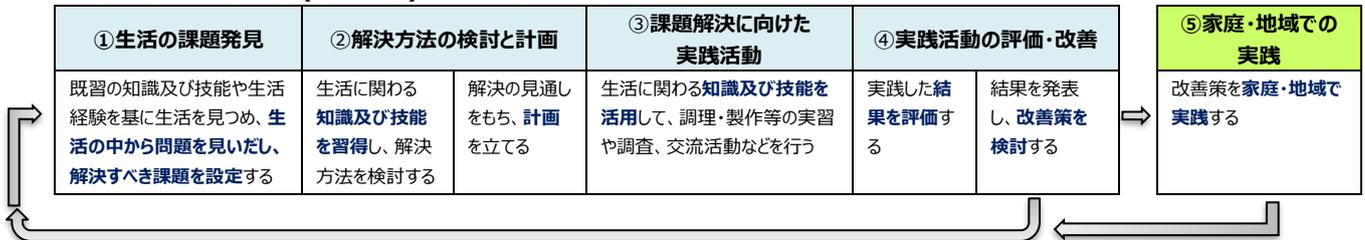


生活を総合的に把握し実践する力の育成

### ポイント②：実生活との関連を図った問題解決的な学習の充実

生涯を見通して生活の課題を解決する力は、実生活と関連を図った問題解決的な学習過程を通して育まれます。とりわけ思考力・判断力との関わりが深い②や④の場面で、生徒が考えたり判断したりする機会を設け、生徒が何を思考しどう判断するか把握する方法を工夫し、授業改善に活かしましょう。一連の学習過程を通して、生徒が自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする、達成感や有用観を涵養し、次の学習に主体的に取り組むことができるようにすることが大切です。

#### 【家庭科、技術家庭科(家庭分野)の学習過程の参考例】



※上記に示す各学習過程は例示であり、上例に限定されるものではないこと

### ポイント③：生活の中で活用する視点を明確にした実践的・体験的な学習活動の充実

生徒は、実習や観察、調査、実験、演習、グループワーク等実践的・体験的な学習活動を通して学習することにより、具体的に考えたよりよい行動の仕方を身に付け、知識や技能を習得し、概念の理解などをより確かなものにしていきます。学習の中で習得した知識や技能を生活の場で活かせるよう、生徒の実態を踏まえた学習活動を設定しましょう。

また、学習意欲を向上させる観点からも、実践的・体験的な学習活動は大切です。

高等学校段階では、小・中学校の学習の上に立ち、科学的な根拠に基づいた実践力を身に付けさせることが重要です。



科学的な根拠に基づく実践力の育成

### 3 高等学校家庭科(各学科に共通する教科)実践事例



#### 単元(題材)の流れ

時間	主な学習内容・学習活動	学習過程
第1次 (4時間)	○誰もが地域社会で安心・安全に暮らすにはどうすればよいのだろう ・コミュニティー・ソーシャルワーカーの仕事や働きを知る。(TVドラマ視聴) ・社会的に孤立し生活に困難を抱えている人と地域住民の考えを汲み取り理解する。(ワークショップ) ・自然災害への対策を考える。(避難所 HUG (平成19年に静岡県が開発した防災ゲーム))	<b>習得</b> 生活の課題発見 解決方法の検討と計画 <b>活用</b> 課題解決に向けた実践活動 実践活動の評価・改善
第2次 (4時間)	○ライフステージやライフスタイルに応じて、どのように住まいを選べばよいのだろう 不動産情報の収集方法、賃貸物件の内見、間取り図の読みとり、維持管理等を理解する。 ○住宅情報を収集し、より良い住宅を選択しよう ・住宅広告を用いて不動産情報を収集・整理する。賃貸契約時にかかる費用、住居費等を知る。	
第3次 (2時間) ※本時 題材の まとめ	○家づくり・まちづくりを考えよう ・住居と地域社会との関わりについて考察し、健康・快適・安全で防災や環境に配慮した住生活や住環境を工夫する。 ・地域社会の一員として、共に支え合って生活することの重要性について考える。	

※本事例は、大阪府教育センターWebサイト([http://wwwc.osaka-c.ed.jp/category/plan/pdf/18\\_02\\_C\\_03\\_009\\_01b.pdf](http://wwwc.osaka-c.ed.jp/category/plan/pdf/18_02_C_03_009_01b.pdf))に掲載している実践をアレンジしています。

#### 深い学びを実現するためのポイント

##### 学習領域の横断や関連付けで生徒の思考を深め・結び・つなぐ題材構成

地域福祉と住生活の学習内容を関連させ、横断して授業を構想し、「協力・協働」「健康・快適・安全」等の視点を鍵にして、様々なテーマで螺旋を描くように学ぶことで、生徒は考えたことや体験したことを単発で途切らすことなく、体験と思考をつなぎ、自分と社会をつなぎ、基礎と応用をつなぎ思考を深め・結び・つなぎながら学習することができます。

##### 問題解決的な学習過程の中で多角的に考えさせる

生徒が習得した知識・技能を現実の生活(家庭・地域・社会)とつないで自分の生活に結び付けて学習できるよう、授業の中に考える場面(知識・技能を活用する場面)を重層的に作りましょう。

様々な角度から判断する理由や根拠を論理的に考え続ける中で、生徒は生活者として大切にしたい価値観や社会の一員として今の自分ができることをより明確にしていきます。

##### 生徒の思考や探究を深める「問い」や支援

要所要所で、思考を揺さぶる「問い」を投げかけることで、生徒は問題の所在や背景に気付き、解決の選択肢をより広い視野で検討できるようになります。

個人で考える場面とグループで考えを出し合い聞き合う場面を螺旋系でつなげ、他者との対話を通して自分の考えを明確にしたり、お互いの考えを広げ深めたりすることにつながります。

●よりよい生活をイメージし、その実現に向けて実践できる

●「見方・考え方」を鍛え、自在に働かせる



## 本時の指導計画

- ◆科目・学年 家庭総合・2年
- ◆単元名(題材名) 住まいとまちづくり (全10時間)
- ◆学習指導要領(平成30年告示)との関連 内容A(5) 共生社会と福祉、内容B(3) 住生活の科学と文化
- ◆単元(題材)の目標

○生涯を見通した住生活の計画・管理、安全や環境に配慮した住居の機能など住生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識と技能を身に付ける。

○防災などの安全や環境に配慮した住生活を主体的に営むことができる。

○誰もが自分の力を生かし、他からの援助も得ながら安心して暮らせる社会の構築に向けて、協力・協働の視点から、個人や地域社会がどのようにつながり支え合ったらよいか、社会の一員としてまちづくりの在り方について考察できる。

### ◆本時の目標

- ・健康・快適・安全な住まいやまちづくりについて関心を持ち、個々に工夫して家づくり・まちづくりに取り組む。[関]
- ・まちの特徴やまちが抱える課題について防災や共生の視点で話し合い、解決策を考え、まとめ、発表できる。[思]

### ◆主な学習の流れ (第9・10時間目/全10時間)

学習活動	指導上の留意事項
<b>1. 本時の学習内容を確認する。</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スクリーンに土地配置図を投影する。</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; background-color: #e0f0ff; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <b>15年後、新しい町で土地を購入して自分の家を建てることになりました。家づくり・まちづくりを学ぼう。</b> </div>	
<b>2. 自分が住みたい家の希望を整理する。</b> ○購入した土地や周辺環境を確認して考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちの特徴や土地の周辺環境(道路、空き家、単身マンション、ごみ屋敷等)を認識させ、自分の理想の家のイメージをもたせる。</li> <li>・組み立てた家を宅地に置き、方角、道路や隣家との位置関係等を意識して玄関や窓の位置、屋根の傾き等を考えさせる。</li> <li>・自分の住要求、健康で快適かつ安全に暮らすための工夫を理由や根拠とともに記入させる。</li> </ul> <div style="text-align: right;">  </div>
<b>3. 住宅模型用展開図を組み立て、自分の宅地に配置する。</b> ○立地状況に合わせて、扉と窓をつける。 屋根の傾き・色や壁材の色・デザインを考え、住宅模型を仕上げる。	
<b>4. 家の工夫やこだわりをまとめる。</b> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">個人</span>	
<b>5. 出来上がったまち並みや景観等を確認し、地域の住環境について話し合う。</b> ○土地の地番ごとに町内会(グループ)をつくり、まちの良いところや困るところを話し合い、整理する。 ○グループの考えを発表し全体共有する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スクリーンにまちの全体像を投影し、景観や人の視線で見たまち並みを確認する。</li> <li>・地域が抱える生活課題や防災の視点から見た課題について、周辺環境に着目して考えさせる。</li> <li>・立地が起因する課題と住民の住まい方が起因となる課題に分類して板書する。</li> <li>・共生の視点で水辺、山手、高層マンション、空き家やごみ屋敷の劣化等への対策を考え、意見を発表させる。</li> </ul> <div style="text-align: right;">  </div>
<b>6. まちの「困ること」への対策、防災対策を話し合う。</b> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">個人→グループ</span> ○グループの考えを発表し全体共有する。	
<b>7. 本時のまとめと振り返り。</b> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">個人</span> ○学んだことをワークシートにまとめ、提出する。	